

月刊

FALCOM MAGAZINE

Vol.
178



さらにグレードアップした『イースX』が
PlayStation 5にも登場！

『イースX -Proud NORDICS-』

剣帝のお悩みをみんなで解決!?
その意外な原因とは?

み～んな集まれ！ ファルコム学園

英雄伝説 空の軌跡

&

啄木鳥しんきのFalcom日和

ファルコムニュース

英雄伝説 零の軌跡 午後の紅茶にお砂糖を



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

目次

- 4 冒険あの名作がグレードアップしてPlayStation 5に登場！
『イースX -Proud NORDICS-』
- 6 も～っと集まれ！ ファルコム学園
新久保だいすけ
- 16 ファルコムニュース
- 19 英雄伝説 空の軌跡
啄木鳥しんき
- 55 啄木鳥しんきのFalcom日和
- 56 英雄伝説 零の軌跡
午後の紅茶にお砂糖を
著：むらさきゆきや イラスト：窪茶

アクションRPG「イース」シリーズ生誕35周年記念作品として、2023年に発売された最新ナンバリングタイトル『イースX -NORDICS-』に、新たにフィールドやダンジョン、イベントに楽曲と追加要素が満載された『イースX -Proud NORDICS-』。2025年にNintendo Switch™2にて発売された本作が、2026年にPlayStation 5でも発売されることが決定。PlayStation 5版ではさらに、4K解像度&120fps対応となっており、さらに迫力あるアクションバトルを楽しめること間違いないだ。



アドル・クリスティン
(CV:梶裕貴)

カージャ・バルタ
(CV:Lynn)

パッケージ版の初回特典には 『イースX -Proud NORDICS- 追加楽曲全集《復刻盤》』を収録！

初回特典として収録される本CDは、本作で新たに追加された楽曲をすべて収録し、オリジナルデザインの音楽CDとして制作された逸品。CD版単品としての販売予定はないので、欲しい人は逃さずにチェックしておこう。



**新たな要素が満載の
『イースX -Proud NORDICS-』が
PlayStation®5にて発売決定！**



■ 製品情報

- 発売日: 2026年2月19日
 - ジャンル: アクションRPG
 - 対応機種: PlayStation 5
 - プレイ人数: 1人
 - CEROレーティング: C
- 価格: 【パッケージ版】8,580円(税込)
【ダウンロード版】8,580円(税込)

『イースX -Proud NORDICS-』公式サイト
<https://www.falcom.co.jp/ysxpn/>

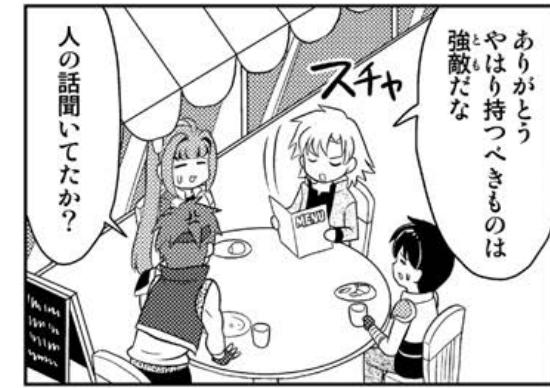
揺るぎない剣帝



レーヴェの話



★啄木鳥先生は「レーヴェのことがよくわからん」と言ってましたが、それな★



本物と偽物



被害者の男性たち



ロランスをもう一度



金と銀



スチャラカしませんか



頭身



レーヴェの仮説



もう一人の僕たち



マジでくたばる5秒前



切れない絆



聞きたかったこと



増えたら減らそう





英雄伝説 閃の軌跡 06

原作／日本ファルコム
脚本／恵村まお 漫画／さがらりり々
A5判 160P 定価：本体991円+税
ISBN 978-4-8021-3123-0

©Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.
©SAGARA RIRI 2018

好評発売中！

エレボニア帝国に吹き荒れる陰謀の嵐!
時代が選ぶのは果たして誰か!?
そして友という絆に背を向け、
両雄相まみえる!
激動のクライマックス!

発行：フィールドワイ
発売：メディアパル

フィールドワイ公式HPはこちら→www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら→www.field-y.co.jp/falcombooks

日本ファルコム創業40周年を余裕で超えて、尽きることなく怒涛の勢いでニューカマーが押し寄せるファルコム学園！いつまで続くのかこの進撃！そして天才・新久保だいすけに果たして限界はあるのか!? 様々な難問に挑戦し続けるご存知“ファル学”第4巻！

実は、計10冊目の 『ファルコム学園』！

も～っと集まれ！

ファルコム学園 ④

新久保だいすけ

定価：本体 909 円+税
ISBN 978-4-8021-3387-6

発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイ公式HPはこちら→www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら→www.field-y.co.jp/falcombooks



全曲新アレンジ・新録音で贈るファルコム45周年記念アルバム 『Falcomアкуースティックス3』2026年3月9日(月)に発売!

日本ファルコム株式会社は、2026年3月9日(月)に創立45周年を迎えることを記念して、同社が手掛ける高解像度ハイレゾ音源によるオリジナル音楽アルバムシリーズ第3弾『Falcomアкуースティックス3』を発売。『ソーサリアン』のボーカルナンバー『Josephine』や『イースII』の代表曲『LILIA』、『XANADU』の『-LA VALSE POUR XANADU-』といった数々の名曲を新規アレンジ。さらに、ボーナストラックとして「奇跡の軌跡VI Falcom jdk BAND LIVE ASIA TOUR 2025」のために制作・新録音された『星の在り処』のJapanese ver.、Chinese ver.を収録しています。



ゲームミュージックファンだけでなく、音楽を楽しむすべての人に聴いていただきたい、という想いを込めて制作した『Falcomアкуースティックス3』。まるで耳元で自分のためだけに生で演奏しているかのような“リアルな音響空間(Acoustics)”をぜひこの機会に体感してください。

また、各音楽配信サイトでのダウンロード販売のほか、「mora」「music.jp」などハイレゾ配信サイトでのハイレゾ音源版販売、「Spotify」「Amazon music」「Apple Music」「YouTube Music」など定額制音楽配信サービスでの楽曲配信も同日より開始されます。

■発売日：E2026年3月9日(月)

■価格：【CD盤】3,080円(税込)、【ダウンロード版】[アルバム] 2,444円(税込)／[単曲] 255円(税込)、【ハイレゾ音源版】[アルバム] 3,055円(税込)／[単曲] 356円(税込)

《収録曲》Josephine(ソーサリアン)／幻の大空セルベンティナ(Zwei!!)／(順不同)白き花のマドリガル・メドレー(空の軌跡 the 1st)／Strepitoso Fight(英雄伝説 空の軌跡SC)／空を見上げて(英雄伝説 空の軌跡SC)／I' II remember you(英雄伝説 閃の軌跡II)／Step Ahead(英雄伝説 閃の軌跡III)／CRIMSON SIN(英雄伝説 黎の軌跡II -CRIMSON SIN-)／LILIA(イースII)／-LA VALSE POUR XANADU- (XANADU)

【ボーナストラック】星の在り処(Japanese ver.)(英雄伝説 空の軌跡) 星の在り処(Chinese ver.)(英雄伝説 空の軌跡)

■音楽配信サイト

『iTunes® Store』<http://itunes.apple.com/jp/artist/id120174391>
『Amazon Music』<http://j.mp/VSjC6N>
『mora』<http://mora.jp/artist/299183/all>
『music.jp』<http://music-book.jp/music/Artist/141849/Album>

■ハイレゾ版音源配信サイト

『mora/ハイレゾ配信ページ』<http://mora.jp/artist/299183/h#discArea>
『music.jp/ハイレゾ配信ページ』<http://music-book.jp/music/Artist/141849/hiresoalbum>
『qobuz』<https://www.qobuz.com/jp-ja/interpreter/falcom-sound-team-jdk/11819776>
『OTOTOY』https://ototoy.jp/_/default/a/124419

■定額制音楽配信サービス

『Spotify』<https://open.spotify.com/artist/5WFofzgRxpVNkpwg9XRsdg>
『Amazon music』<https://music.amazon.co.jp/artists/B00B4R35JQ/falcom-sound-team-jdk>
『Apple Music』<https://music.apple.com/jp/artist/falcom-sound-team-jdk/120174391>
『YouTube Music』<https://music.youtube.com/channel/UCOOOdHr4emlkr02wjynGF3Q>
『qobuz』<https://play.qobuz.com/artist/11819776>

「ファルコム 音楽CD」情報ページ

<https://www.falcom.co.jp/music> 《ファルコム音楽フリー宣言》<https://www.falcom.co.jp/music-use>

ファルコムショップ

<https://falcom.shop/products/detail/767>

►ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

Nintendo Switchに登場! EGGコンソール『ザナドウ MSX』配信開始

Windows向けレトログame配信サービス・プロジェクトEGGのNintendo Switch展開である“EGGコンソール”に『EGGコンソール ザナドウ MSX』が登場！国産PCゲームで40万本というセールスはいまだに破られることがない記録。エポックメイキングという言葉がこれほど似合うタイトルは、他にはないかもしれません。



なお、今回リリースするMSX版は後発ということもあって、装備しているアイテムがアイコン表示されるなどのマイナーチェンジもあります。「MSX版が好き！」というザナドウファンには一目置ける存在といえるかもしれません。



プレイヤーは冒険者となって全10ステージを探索し、最終的にキングドラゴンを倒すことが目的です。

プレイヤーキャラには職業はなく、戦士と魔法使いの2種類の経験値やレベルがあり、どちらを使って敵を倒すかで、戦士系にも魔法使い系にも成長することができます。また武器、防具、魔法にも経験値が設定されており、同じものを使い込むことで、より高い効果を発揮することになります。

マップ上にはショップが配置され、モンスターが徘徊していますが、モンスターは有限で狩り尽くすと出現しなくなってしまいます。つまり経験値も有限と言うことなので、武器で倒すか、魔法で倒すかは、よく考えて戦いたいところ。キャラクターやアイテムの成長はあなたのマネジメント力が必要になるでしょう。果たしてあなたは、巨大な「クラーケン」、複数の手を持つ巨人「カーティケア」、銀色に輝く「シルバードラゴン」といった巨大なボスキャラを倒し、キングドラゴンを倒すことができるでしょうか。



戦闘はシンボルエンカウント方式を採用

モンスターと接触することで戦闘シーンに切り替わり、武器による攻撃(体当たり)や魔法を駆使してモンスターと戦います。敵を倒せば宝箱が出現し、アイテムやお金などが獲得できます。

■タイトル：EGGコンソール ザナドウ MSX
■メーカー：D4エンタープライズ ■対応言語：日本語、英語
■価格：880円(税込) ■配信日：2025年11月20日(木)

My Nintendo Store

<https://store-jp.nintendo.com/item/software/D7001000093166>

EGGコンソールタイトル一覧

<https://www.amusement-center.com/project/egg/console/>

《Falcom jdk BAND LIVE 2026》前売りチケット発売中! フリー入場物販も決定!



2026年2月7日（土）、東京・赤羽ReNY alphaでフルライブ開催決定。主題歌『星の在り処』「空の軌跡 the 1st」バージョンを世界初生演奏します。

『Falcom アクースティックス3』 先行販売

2026年3月9日発売予定の全曲新アレンジ・新録音で贈るファルコム45周年記念アルバム『Falcom アクースティックス3』をいち早くライブ開場で先行販売します

■日時
2026年2月7日（土）開場16:30／開演17:30
※開場前のフリー入場物販 14:00～16:00

■会場
赤羽ReNY alpha（JR赤羽駅 東口より徒歩1分）
https://ruido.org/akabane_reny/access.html

■出演者
『Falcom jdk BAND』
佐坂めぐみ（ボーカル）／PBM（ギター）／ADD（サックス）／谷崎航大（ヴァイオリン）／gakia2（キーボード）／NAOKIX（ベース）／山崎善紀（ドラム）

■出演者
ライブ開場前の2時間はフリー入場物販。ライブチケットをお持ちでない方もご利用いただけます。
[14:00～16:00]
物販（フリー入場）※チケットなしで入場OK
[16:30～]
※開場後～終演後も物販を行います

■チケット情報
【発売日】
2025年11月14日（土）12:00
【料金】
¥6,000（税込）
※別途ドリンク¥700（税込）必要
【座席】
スタンディング
【チケット購入】
e+（イープラス）※入場はチケット記載の整理番号順となります（整理番号は購入先着順）

<https://eplus.jp/sf/detail/4425630001-P0030001>

ライブ特設サイト

<https://www.falcom.co.jp/jdk/2026/>

Falcom Shop POP UP 《ファルコムしよう2025》 11月29日（土）より仙台会場にて開催！

ファルコムのFalcomShopが全国5会場を巡回。みっしいバルーンの撮影スポット、試遊台、物販などぜひお近くの会場へお越しください。

※会場により展示内容が異なる場合がございます。
ご了承ください。

■会期

ジーストア小倉

2025年11月1日（土）～11月9日（日）

ジーストア名古屋

2025年11月15日（土）～11月24日（月祝）

ジーストア仙台

2025年11月29日（土）～12月7日（日）

グランエンタス（秋葉原オノデン1F）

2025年12月27日（土）～2026年1月12日（月祝）



■入場料：無料

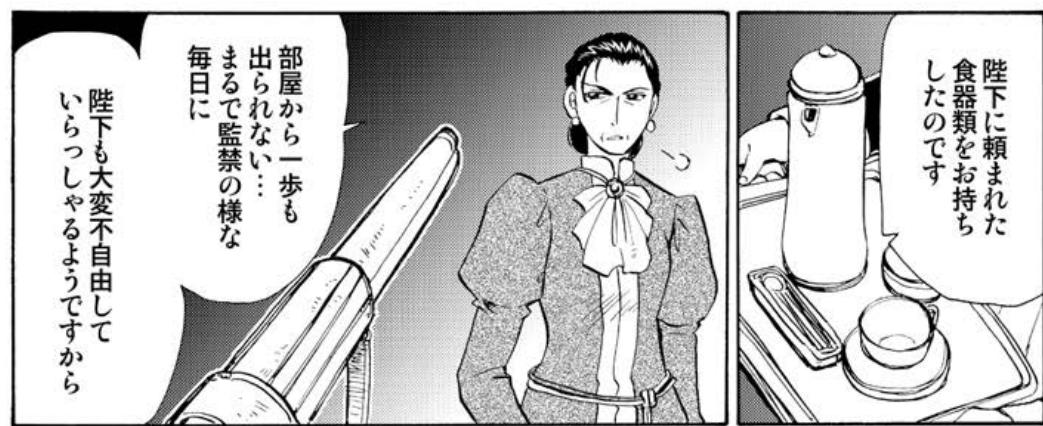
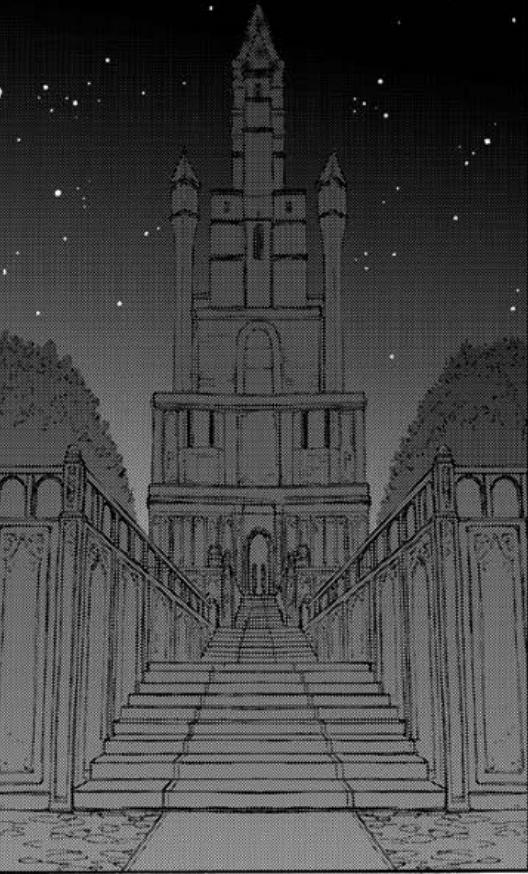
特設サイト

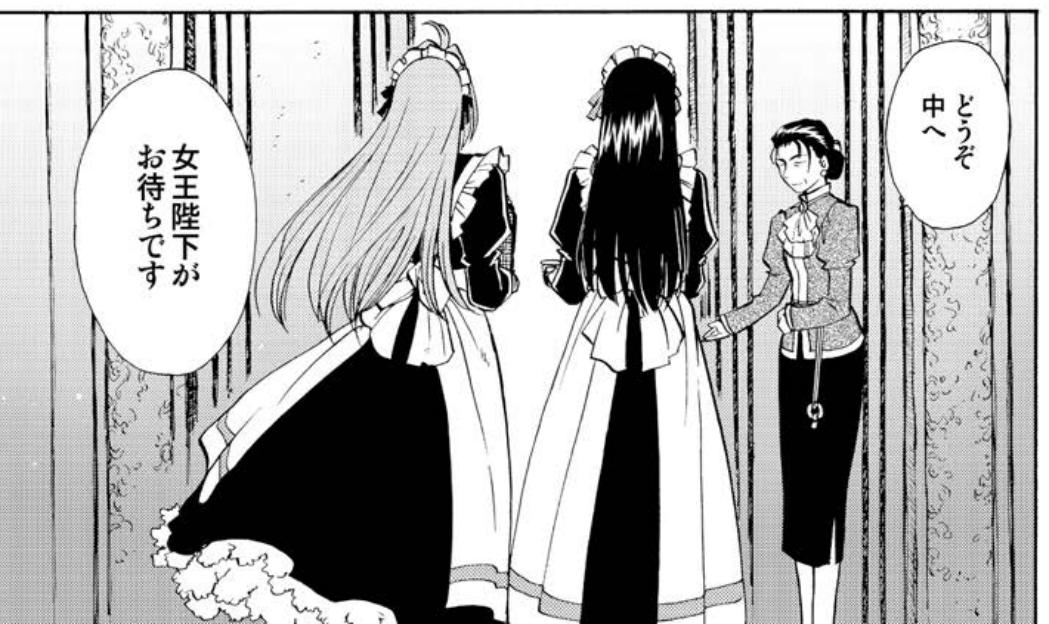
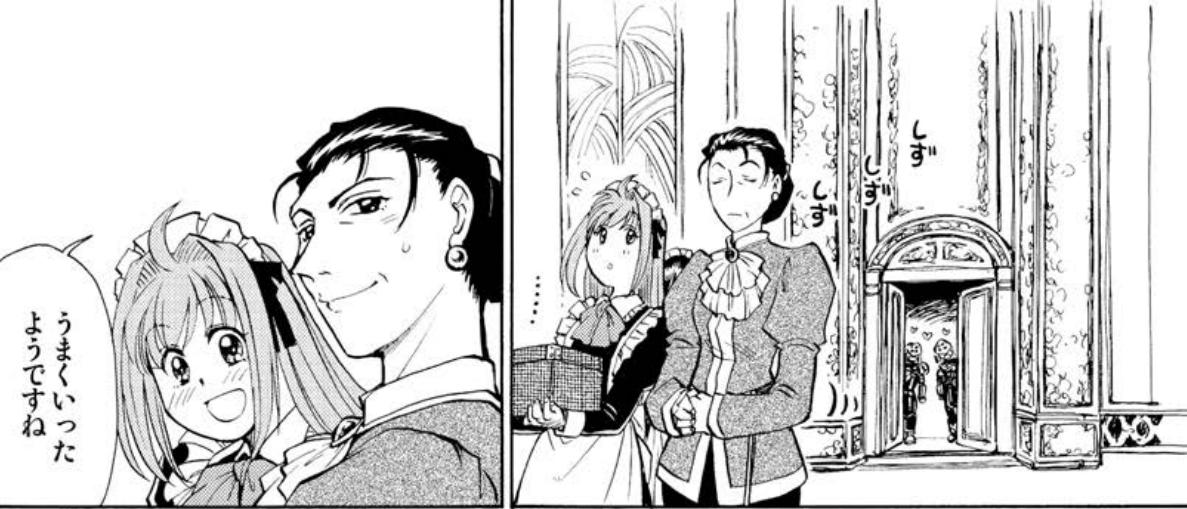
<https://www.geestore.com/event/gallery/falcomshop/>







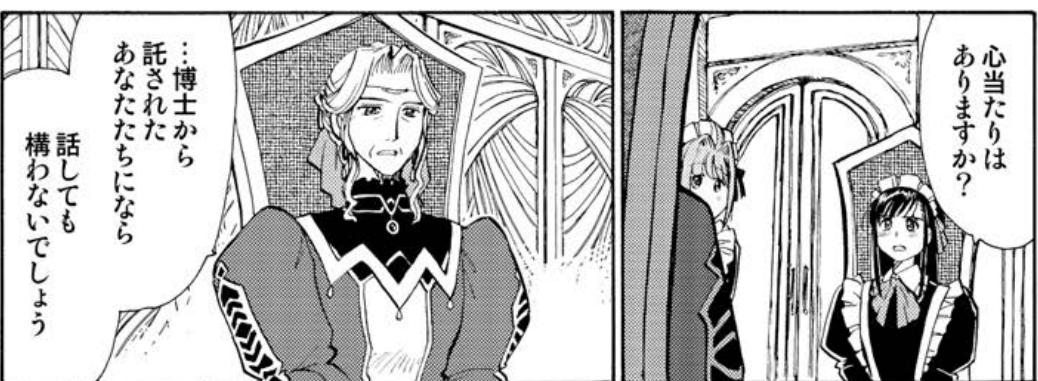


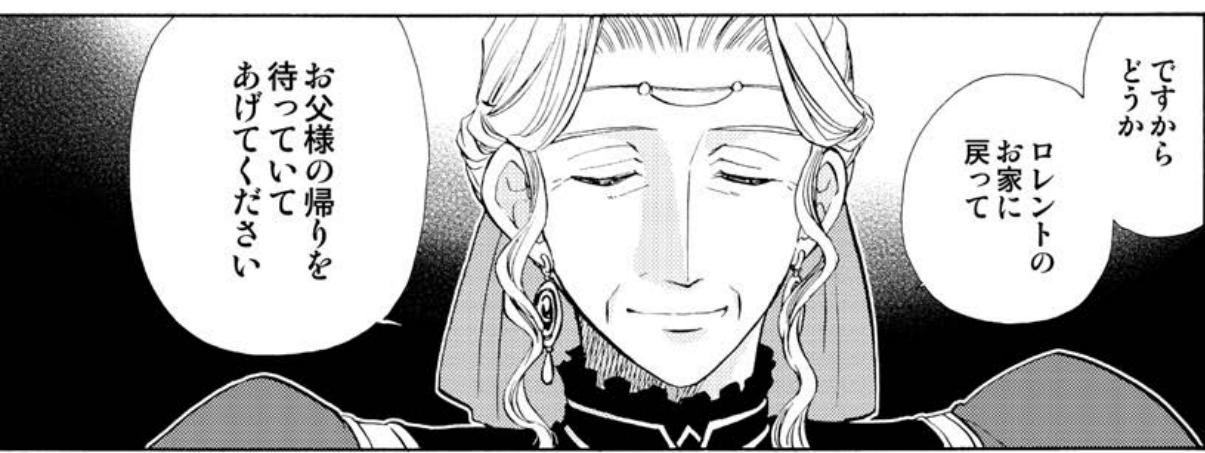
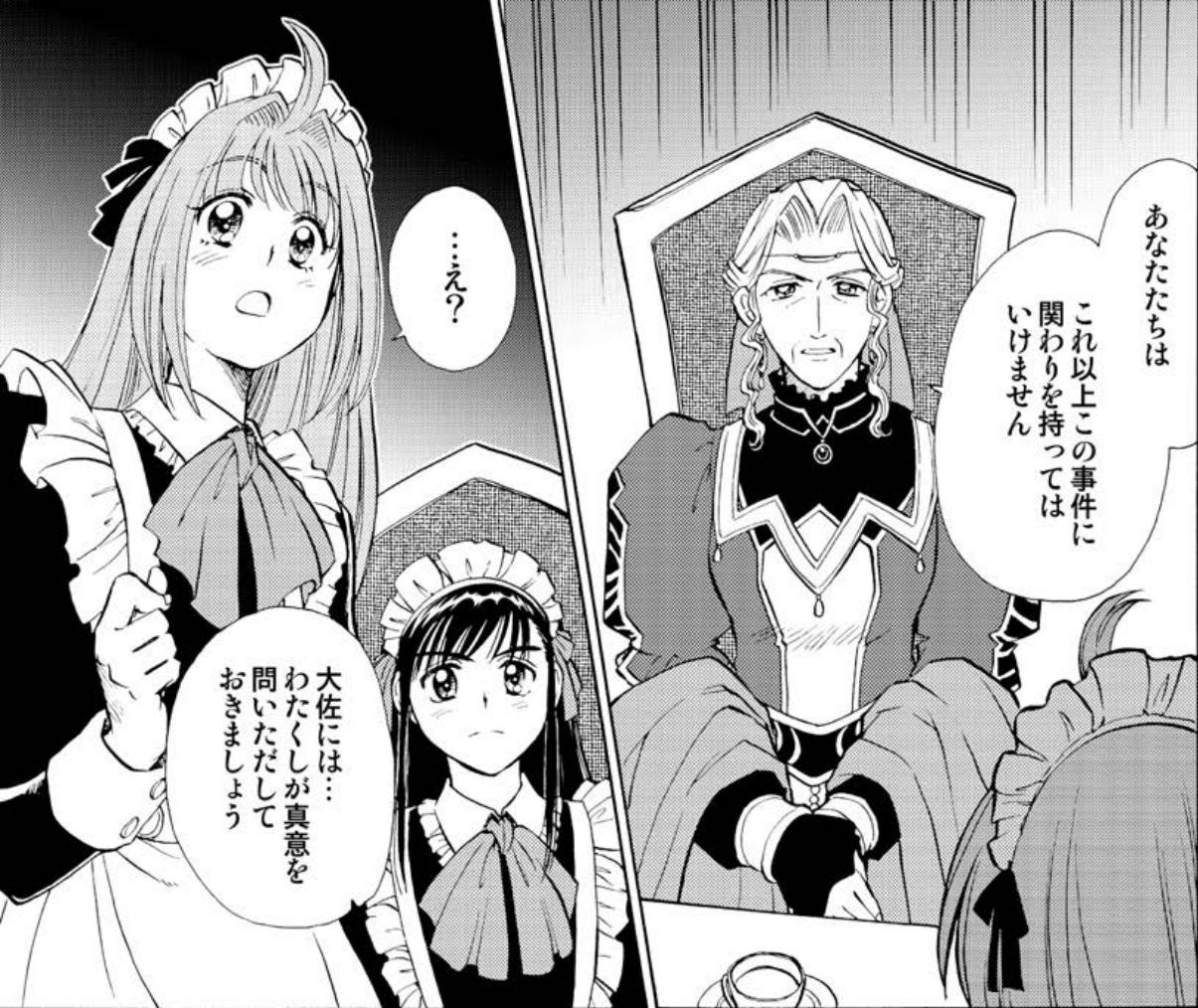






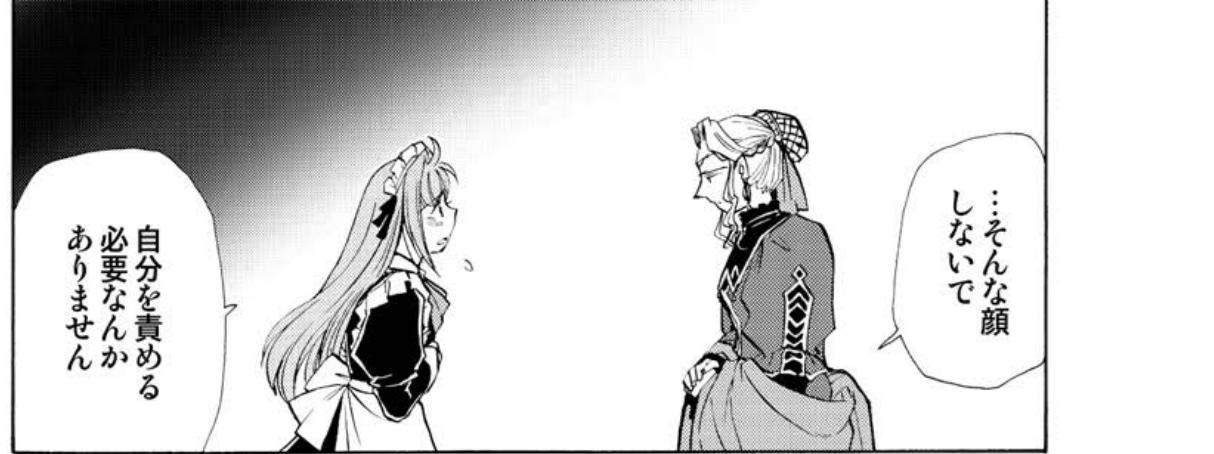
「古代遺物」が
埋まっているかも



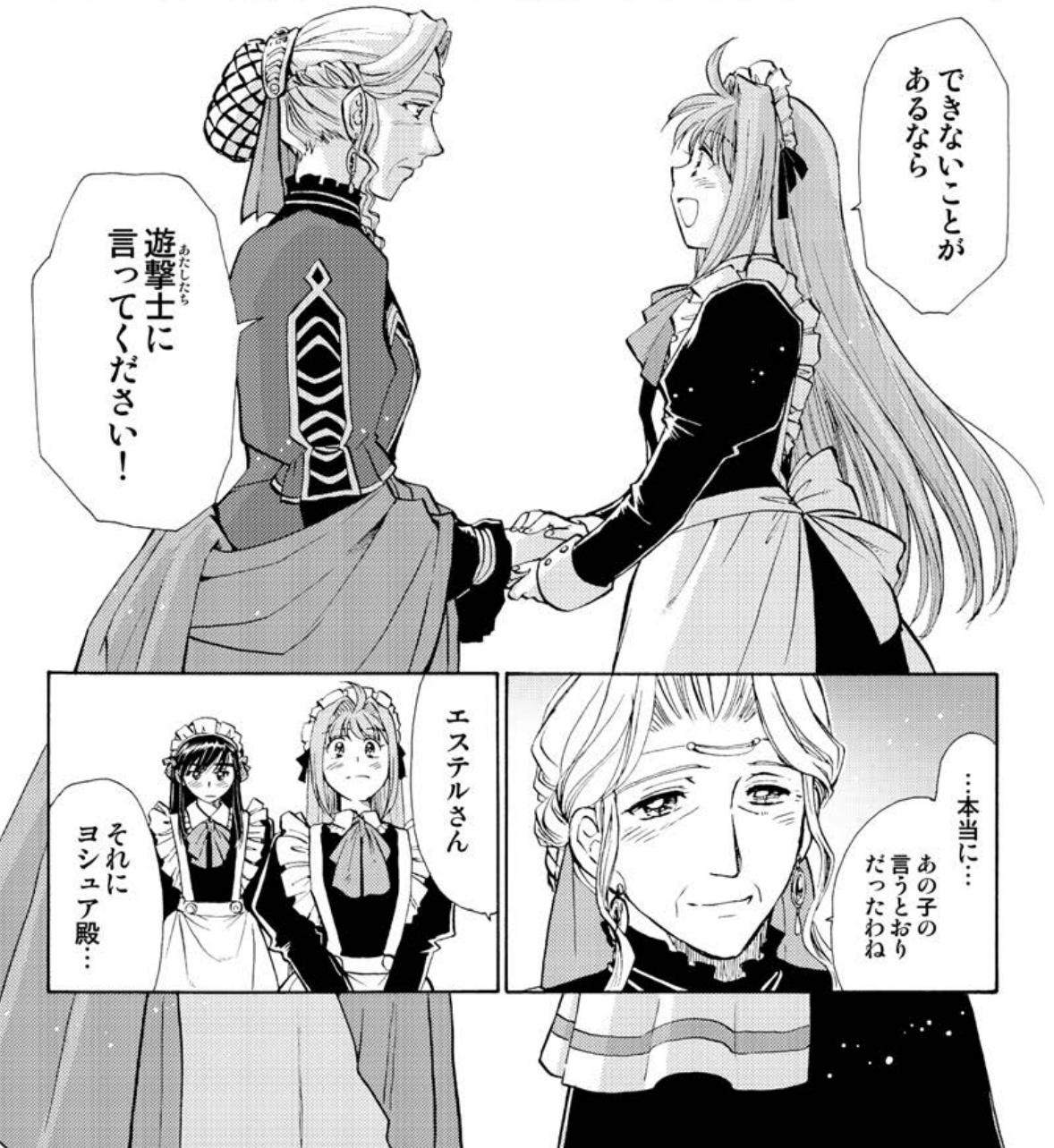


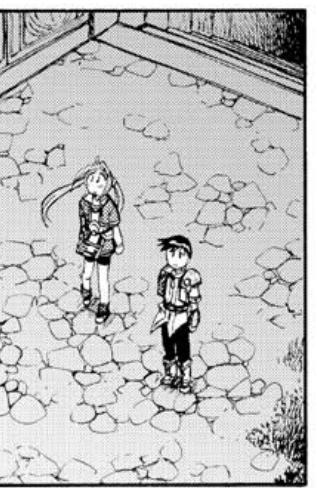


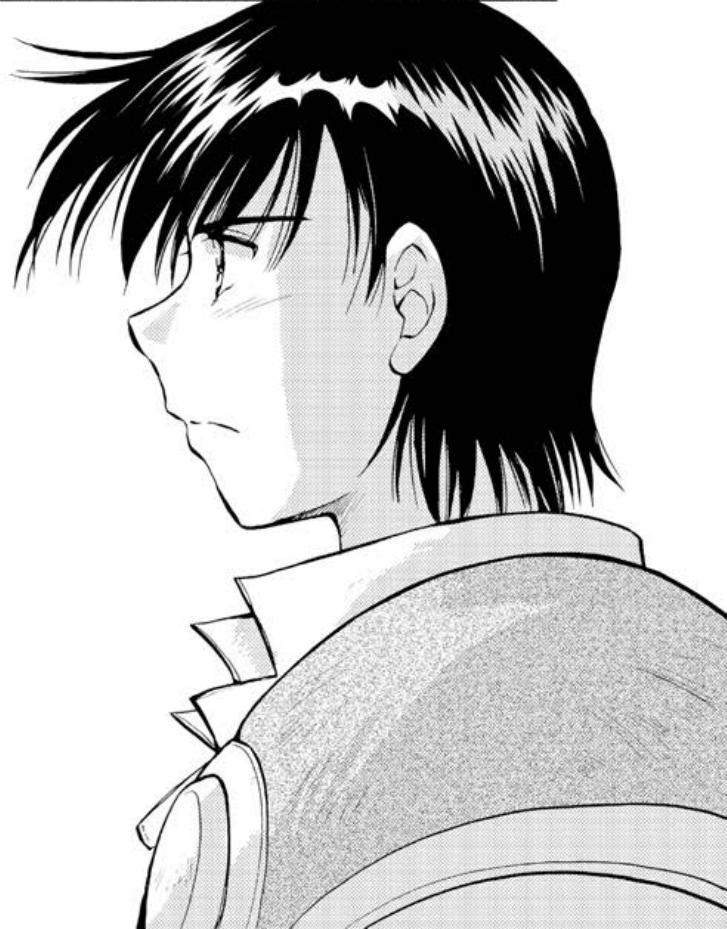


















青鳥っていうものが大きいほど 人は自由に動けなくなるのやないか
アリシア女王様を見るとほんとう鬼います。じんといな。

漫画で、エステルたちはメイドさんの恰好のまま
女王様との謁見をしてしまいましたが、あれは、
敵だらけの女王宮で変装を解いて、情報部に
見つかったら大変なことになるのを防ぐための
苦肉の策であって、邪な竜団はありません。
にしてあります。

啄木鳥しんきの Falcom日和



メイド服
かわいい(-_-)



次回に続く

英雄伝説 零の軌跡

午後の紅茶にお砂糖を♪

特務支援課メンバーが過ごす

クロスベル自治州のゆる~い(?)日常!



第6回

©YUKIYA MURASAKI, KUBOCHA

エレボニア帝国とカルバード共和国という大国に挟まれながらも、
自治州として独立していたクロスベルを舞台とした『零の軌跡』、
『碧の軌跡』シリーズ。続編となる『閃の軌跡』、『創の軌跡』において
ても激動の中にあり、様々な壁が立ち塞がっていたが、怯むことなく
立ち向かっていったのがロイド・バニングス率いる特務支援課メンバ
ーだ。そんな特務支援課メンバーが、もしかしたら過ごしてい
たかもしれない日常を描く、魅力たっぷりの一冊をご堪能あれ！



第4話
『リージヤと銀のハイキング』

おだやかな日差しが、アルカンシェル劇場の二大スターの看板を照らしていた。

一枚はトップスターのイリア・プラティエ。豪奢な金髪の美女である。

もう一枚は、大型新人アーティストのリーシャ・マオ。神秘的な美貌の少女だ。

彼女たちを中心とした舞台で、アルカンシェル劇場の名は周辺諸国にも知れ渡っていた。

その控え室でのこと――

午前の練習が終わると、リーシャはすぐに練習用の衣装から私服へと着替えた。

「思つたより長引いちゃった……急がないと……」

そこへ、ぬうっと背後から手が伸びてくる。

「ハツ!?」

むんずつ！ とリーシャの胸が、その両手に掴まれた。

「ひやつ!?」

「リーシャー？」

胸をつかんできたのは、金髪の女性だ。

「あ……イ、イリアさん……!?」

「そんなにあわてて、どこへ行くのかしら？」

まだ彼女は『太陽の姫』の衣装を着たままで、まるで本物のお姫様みたい。

(まあ、本物のお姫様なら、女の子の胸をつかんだりしないだろうけど……)



とリーシャは内心で苦笑した。

あのう、イリアさん……ちよつと、今日は、人と会う約束がありまして……

なんですか
まさか
彼氏がいる

「そ、そんなわけないじゃありませんか！　だいたい、稽古ばかりで、作る暇なんか！」

もにゅん
もにゅん
と白くて細い指に
リレーシャの胸かもみしたかれる

「リーシャって、それほど背は高くないし、体だって細いのに、胸ばかり、こんなにもー

ハアハア、なんか興奮してきちゃつたかも

控え室の入り口あたりから、深々としたため息が聞こえた。

「はあ～～～～～。イリアさん、リーシャ姉になにやつてんだよ

呆れ声をあげたのは
シリリたつた

（一）東洋の讀書（二）（三）（四）（五）

テヘツ、トイリアが舌を出した。

「あまりに、もみ心地がいいものだから、つい♪」

ようやく不埒な両手から解放され、リーシャはへたりこんでしまう。

江戸にか肩をすくめた

「え、うん……ありがとう、シリウスちゃん」

「シユリ、本当にすごいのよ!? あんたも、もんでみる?」

「いや、遠慮しとく……」

ううう……イリアさん、午後の練習には戻りますから……失礼します！」

卷之三

「はあ、イリアさんたら……本氣で急がないと……」

物陰に隠れる。

次の瞬間、黒い影が現れた。建物の壁を蹴つて、屋根へと飛ぶ。

その部屋には、ふたりの男がおり、地下水のように冷たく洞窟のように暗い禍々しい気



配と緊張感が満ちていた。

一方の男

部屋の主は、鋭利な刃物のような雰囲気の青年であり、名をツアオ・リーといった。

表向きは黒月貿易公司の若き支社長だが、正体は犯罪組織『黒月』の幹部である。

「フフ……さすがは銀殿だ。まさか、これほどの成果をあげてくださるとは……：シユヴァルツォークション黒の競売会』の失敗により、ルバーチエ商会は大幅に勢力を減じました。この街の裏社会、予定より早く牛耳ることができそうですよ」

「銀」と呼ばれた、もう一方の男は――

顔を仮面で隠し、黒いローブをまとっている。

実は、理由あつて声まで変え、男装をしている、リーシャであった。

アルカンシエル劇団の新人リーシャ・マオと、犯罪組織の幹部が厚く遇する黒衣の男『銀』――その両方の立場が彼女だった。

感情を隠した平坦な口調で返す。変装のために歪んだ声だった。

「私が受けたのは、オーケションの出品物を確認する依頼だけだ……」

「フフ、そうですね……騒動を起こしたのは警察の特務支援課ということになっているとか。それこそ素晴らしい。自分たちが手を汚すことなく、競争相手を蹴落とすことができたのですから」

「…………」

あの夜――

『銀』として依頼を受け、出品物を調べるために会場へと乗りこんでいた。

ところが、保管部屋に押し入った直後、ロイドたち特務支援課が現れたのだ。

「なつ……!? あんたは……!!」

「……妙な気配がするかと思えば、お前たちも入りこんでいたか」

まっすぐな目をした青年と対峙して、リーシャは戦うことなどできなかつた。

ロイドたちは、先日、イリアと劇団のために尽力してくれた。リーシャにとつての恩人であり、友人だから。

しかし、別のこととも考える。

（でも、ここで簡単に協力するのは不自然よね？ 正体がバレたら困るし……）

熟考の末、こんな言葉を放つた。

「フフ、お前たちを始末するのは簡単だが……この場を任せても面白いことになりそうだ」「なに……!?」

「奥の部屋に競売会後半の出品物がある……『黒月』に流れた情報によると、面白い『爆弾』

があるらしいぞ？ その目で確かめてみるといい」

そう告げて、屋敷を後にした。

リーシャは物思いから意識を戻す。

「フン……」

今にして思えば、なぜロイドたちに任せようと思ったのか？ なぜ出品物を確かめずに屋敷を離れたのか？

自分のことながら腑に落ちない。

(まるで、それらが運命であったかのよう……運命？ 私らしくもない……)

リーシャは思考を振り払つた。

ともあれ、結果だけ見れば、黒月(ハイユウ)にとつては願つてもない展開になつてゐる。いつも本心を隠している雇い主(ツアオ)が、それとわかるほど上機嫌になるほど。

「フフ、すでにルバーチエ商会のルートを幾つか押さえることができました。今、あちらは目立つた行動が取れませんからね。一方的すぎて少々物足りないほどですよ……さすがは、伝説の凶手、銀殿(キンザン)です」

「私は依頼があつたから動いた……そして、利用できるものはすべて利用する……それだけのこと」

口ではそう言いながら、リーシャは内心で、申し訳なくて仕方ないのだが。

(はあ～……ロイドさんたちを利用する気なんてなかつたのにな。マフィアから報復がないといいけど……あのとき、私が出品物を任せなければ……)

ツアオが黒い笑みを浮かべる。

「フフ、本当に恐ろしい方だ。今後とも我々の、よき協力者であつてもらいたいのです」「……時間があれば、依頼は引き受けよう。今日は、ここまでだ」

「また『時間』ですか？」

「フ……」

(もう、午後の練習が始まつちやう)

そういえば——とツアオが口を開いた。

「銀殿(キン)には興味のないことかもしれません、特務支援課とルバーチエ商会の間で、進展があつたようです」

「…………」

無関心を装つて黙りこんだが、内心では気になつて仕方なかつた。

「ルバーチエ側から警察に、手打ちを提案したようですね。支援課に報復や訴訟をしない代わりに、『黒の競売会(シユガアルオークション)』で彼らが見つけたものは、自分たちと関係がないことにしてくれ、と

「……警察側は受けたのか？」

「非公式ながら。法廷で捜査の合法性と、ルバーチェの違法行為の両方を立証するのは難しい、と判断したのでしょうか」

「フ……この街の警察は腑抜けばかりだな（よかつた）、ロイドさんたちは安全になつたのね！」

リーシャは内心で安堵した。

ツアオが机のうえの報告書をなでる。

「おかげで、私の仕事は順調ですよ。これ以上ないほどに」

「……時間だ」

銀は壁に向かって歩く。ぶつかる直前、自らの姿を歪ませて、その部屋から音もなく姿

を消した。

ツアオは薄笑いを浮かべていた。



午後の練習――

「リーシャ、もっと抑揚をつけて！」

「はい！」

イリアの声が響いた。

劇団のスタッフたちには、充分に完成しているように見えていても、彼女の目には、さらなる高みが映っている。

「もっと早く！ そう！」

舞台の左右からジャンプしたリーシャとイリアが、中央で交差する。
見守っているスタッフたちから、おお……と感嘆がもれた。

練習用の衣装で、セットもない舞台だが、そこにイリアの描いている完成形を幻視したのかもしれない。

「いい調子よ、リーシャ！」

「は、はい！」

踊るイリアの顔に笑みが浮かんでいた。

リーシャも笑みをこぼす。

充実している。

生きていると実感する。

イリアには、いくら感謝しても足りない、そうリーシャは感じていた。

リーシャに才能があると見込んで、劇団アルカンシエルに誘ってくれたのは、他ならぬ

トップスターのイリアだった。

決められた暗闇の道を歩くことしか知らなかつた自分に、光を教えてくれた女性。太陽のように。

音楽が終わる。

同時に全員が動きを止めた。

ふう〜、と誰ともなく息を吐く。

一曲ぶんの練習が終わり、小休止となつた。

イリアがやつてくる。

「リーシャ、最近、なにか気がかりがある様子だつたけど、もう心配はなくなつたようね?」「えつ!? ……気づいてたんですか……イリアさん」

「フツフツフツ、一緒に演じていれば、当然よ。創立記念祭の後からよね。最終日の打ち上げから消えたことと関係あるのかしら?」

「す、すみません……」

「まあ、それで気の抜けた演技をしてたら、厳しく言わせてもらつたけど、完璧だつたらね」

「え? そうなんですか? じゃあ、どうして気づいて?」

「私は完璧よりも上を目指してるから♪」

「あ……」

舞台のことを口にするとき、イリアは真剣な顔をする。そして、舞台の将来を語るときは幸せそうに笑うのだ。

「完璧な演劇をすれば拍手はもらえるわ。でも、それだけじゃ足りない。お客様が感動するのは、完璧を超えたときなのよ」

「はい……」

「今のリーシャなら、完璧の上を目指せると思う。もちろん、私も立ち止まつてゐるつもりはないけどね」

リーシャは心地よい緊張と高揚に包まれる。

自然と笑みがこぼれていた。

「私、がんばります」

「よし!」

ぱんぱん、とイリアが手を叩く。

「さあ、休憩は終わりよ! 次の曲をかけて!」

イリアとリーシャのテンションは上がりっぱなしで、周りのベテランたちも集中していくが、端で話を聞いていたメンバーの中には、必要以上にプレッシャーを感じてしまつた者もいた。

シユリが緊張しすぎて目を回してしまう。

「い、いくぞ……うわっ!? とつ、とととと……ととと……」

セットも置いていない舞台でつまづき、ととと、と中央までたたらを踏んだところで、ずべりと倒れた。

あわてて、リーシャは駆け寄る。

「シユリちゃん、大丈夫!?」

「う、ごめん……イリアさん、リーシャ姉……オレ……」

泣きそうなシユリの頭を、イリアの手がくしゃくしゃとなれる。

「ごめん、ごめん! ちょっと練習がハードだつたわね。考えてみれば、最近、休みもなかつたし。疲れからミスが出て当然だわ」

「イリアさん、オレ、まだ……!!」

「体調管理もプロの仕事! と言いたいところだけど、あなたの歳なら、教えている私の仕事よね」

「大丈夫だよ! まだ練習できる!」

「いいから言うこと聞きなさい。今日は、お休みにするわ。みんなも、急で悪いけど、一息入れましょう」

団員たちから「そいつは助かるな」とか「ようやく休みか」と笑い声がこぼれた。

「休日に英気を養うのもプロの仕事よ? あんたに、それができるかしら?」

「む……休むことなんか、誰にだってできるだろ。オレは、ひとりでだつて練習するからな!」

「ダメよ。私と一緒に来なさい。休日のなんたるかを教えてあげるわ!」
客席で舞台を見ていたアバン劇団長が、ゴホン! と咳払いをした。
「大見得を切つたところ悪いが……イリア君、練習のあと、^{インタビュー}取材があると言つておいたはずだな?」

「どうも〜!! おひさしぶりです! クロスベル通信のグレイス・リンです!^{タイムズ}」
エメラルド色の瞳を輝かせて記者の女性が入ってきた。
その横で、カメラマンの青年が、パシャパシャとシャッターを切る。
グレイスがマイクを向けた。

「イリアさん、練習を終えての手応えを、ひと言!」

「ふふ、創立記念祭の公演を経て、私を含めた団員たち全員が成長しているのを感じるわ。次は前回より素晴らしい舞台を披露できそうよ」

「わ～お！ もしかして、もう具体的なアイディアが、おありますか!?」

ねぎらいや挨拶ではなく、演劇の話から始めるあたり、イリアの性格を知っている。さすが地元の記者だ。

「アイディアね……話すと長くなるかしら。ねえ、リーシャ」「はい？」

「シユリと遊んできてくれる？ 劇団長、すこし小遣いを渡しておいてよ。どうせ、ほどんど手持ちがないに決まってるんだから」

「やれやれ、イリア君にはかなわないな」

リーシャはあわてて両手を振る。

「そんな！ ミラなんて……」

「オレは、休みなんかいらないって、イリアさん！」

シユリの反論に、イリアが顔をしかめた。

「あんたね、今さら照明や音響のスタッフに、やっぱり休みなしつて言う気？ 恨まれるわよ？」

「うつ……」

すでに大半のスタッフは引き上げていた。

呼び戻すことさえ難しいだろう。

「リズムもなしでは練習にならないでしょ？ 明日、居残りで見てあげるから、今日は休みなさい」

「わ、わかったよ……そのかわり、明日！ 絶対だからな！」

「あんたこそ、早々にへばるんじゃないわよ？」

ヒラヒラと手を振ると、イリアは記者たちのほうへ向かっていった。

グレイス記者が、もみ手しながら待っている。

「うふふん♪ イリアさんのアイディアって、もしかして、そこの若手の子と関係があります？」

「おつ、鋭いわね♪ でも、それはナイショ」

リーシャは、劇団長から「まあ、イリア君から押しつけられたと思って受け取ってくれ」とお小遣いを渡された。

シユリと一緒に着替えをして、劇場を出る。

ひとまず、中央広場に来てみたものの、なにをしていいやらわからなかつた。

シユリが首をかしげる。

「リーシャ姉、どうする？」

「どうしようか？」

「いつも、休日はどうしてんの？」

「え……」

『銀』として依頼を遂行するか、なまらないように訓練をしているか——などと言えるわけがなかった。

黙ってしまう。

シュリが肩をすくめた。

「なんだ、リーシャ姉もオレと同じか」

「ええつ!?」

(ま、まさか、シュリちゃんまで裏社会の……刺客!?)

「休みの日なんて、寝てるよな！」

リーシャは胸をなでおろす。

「はあ、そ、そうよね。でも、お小遣いをもらっちゃったから、家で寝てるってわけには……」

「そんなこと言われてもな。オレ、服と食事以外にミラの使い道なんか知らねえよ」

「たしかに、防具と回復薬くらいよね。セピスのほうがクオーツに合成できるぶん使え——」

「はあ?」

シュリに怪訝な顔をされてしまった。

あわてて、リーシャは口元を押さえる。

気が緩んでいたらしい。

「あ、いえ……ちょ、ちょっとした冗談なの。面白かったでしょ? 笑ってもいいのよ?」

「リーシャ姉って、ルックスも演技もすごいけど、ジョークのセンスはイマイチだよな」

「ううう……すみません」

クロスベルに来るまで、冗談どころか雑談もろくにしてなかつたのだから無理を言わないで欲しい、と思う。

そのとき、見知った顔が歩いているのを見つけた。

「あ、ロイドさん!」



ロイドたち四人はウルスラ病院から戻ってきて、鉱山町マインツに向かう途中だった。
中央広場で声をかけられる。

「あ、ロイドさん!」

呼ばれたほうを見ると、黒に近い紫色の髪の少女と、まるで少年みたいな格好をした女の子が、こちらに歩いてきていた。

「やあ、リーシャに、シュリじゃないか」

リーシャが丁寧におじぎして、シュリがぶつきらぼうに片手を擧げる。

「ここにちは、みなさん」

「ちわ」

エリイとティオが挨拶を返した。

「ここにちは」

「……どうもです」

ランディが驚愕に目を見開く。

「なんてこつた！ 今日はついてるぜ！ こんなところで、アルカンシェルのスター、リーシャちゃんと会えるなんて!!」

「そ、そんな、大げさですよ」

「リーシャ姉の場合、大げさでもないんじゃねえの？」

最近、ファンレターもすごいしな

シユリにまで言われ、リーシャが赤面する。

ロイドも彼女の演技に見惚れたひとりだから、ファンの気持ちはわかるが……これ以上、言つたら、本当に困らせてしまいそうだ。

「今日は、リーシャたち、練習が休みなのか？」

「はい。お休みになつたものだから、困つてるんです」

「休みになつたから、困る？」

ロイドは首をかしげた。

エリイたちも不思議そうな顔をする。

「どういうことかしら？」

「実は、お休みに慣れてないもので、なにをしたらいのかわからなくて」

「な、なるほど……」

シユリが唇を尖らせる。

「あんたたち、支援課だろ？ オレたち市民なんだから助けてくれよ」

「う、うーん……休日の使い方か……」

「家で寝てるつてのは、ナシだぞ。それ、オレが提案して、リーシャ姉にダメ出しされたからな」

「いくらなんでも、それは提案しないから安心してくれ」

ティオが手を挙げた。

「ん」

「おつ、いい案があるのか、ティオ？」

「ふふ……完璧です。休日といえば、ゲームです。とくに、対戦型の導力ネットゲームは、いくら時間があつても足りないほどです。『ポムツと！』といって、まだ開発段階のもの

なんですが——」

「すみません……それは面白そうですが……私、導力端末を持つてませんから……」「オレ、難しいのはバスな。眠くなるから」

「がーん」

ティオが膝をついた。

今度は、エリイが前に出る。

「まだまだ導力端末は広まつてないものね。だけど、本ならなにもなくとも読めるわ。これからだと、市立図書館も近くにあるし」

「ん~……すみません。できれば、シユリちゃんと楽しめるものがいいと思うんです」「だから、難しいもんはバスだつて！ 本なんか表紙を見ただけで眠くなるだろ!!」

「そ、そうよね……」

しゅん、とエリイがうなだれる。

不敵な笑い声をあげたのは、ランディだつた。

「この休日マスターの出番が来たようだな！ 休日なら任せろ！ 僕こそが、キング・オブ・休日!!」

「ランディ、お酒とギャンブルと非道徳的な場所は勧めないでちようだいね？」

エリイに釘を刺されると、キング・オブ・休日が、グツと言葉に詰まった。

ティオが眉をしかめる。

「……ランディさん、最低です」

「そ、そ、そんなんじゃねえ！ えへへへと、そうだ！ 今から俺たちマインツに向かうんだけど、一緒に行くなんてのはどうだ？」

シユリが手厳しく返す。

「はあ!? なにしに行くんだよ？ マインツなんて、山しかないんだろ!?」

しかし、リーシャは興味を示したようだ。

「もしかして、シユリちゃんは、マインツに行つたことないの？」

「ノーザンブリア自治州から流れてきて、やつとクロスベルに着いたんだぜ？ わざわざ街から出ないって」

「大変だったときは、そうでしょうけど……今は、少しくらい遠出する余裕があるんじゃない？」

「まあ、昔とは違うけどさ……」

「マインツは鉱山町で、特別な観光地ではないけど、行つたことがないなら、見ておいたほうがいいと思うわ」

「うーん、他に案はないのかよ!?」

シユリに訊かれて、ロイドは頭をかいた。

「いや、考えてみたら、実は俺も休日にはトレーニングとか、釣りくらいなんだよな」

「あ～、つまんねえやつだな」

「うう……返す言葉もない」

「仕方ねえ、リーシャ姉がいって言うなら、つきあうか」

「ふふ、ありがとう、シユリちゃん」

リーシャが微笑んだ。

ランディが小さく拳を握る。

「おし！ 乾いた仕事に、潤いが！ 可憐な花が！ 道中が楽しくなりそうだぜ」

エリイとティオがジト目になっていた。

「どういう意味かしら？」

「……聞き捨てなりませんね」

「え？ あ、いや……それはだな……」

ランディがあれこれと言ひ訳する。

ロイドはリーシャたちと顔を見合わせ、苦笑していた。

マインツに向かうため、西通りを通って住宅街のほうへ向かう。

途中、リーシャが尋ねてきた。

「誘つていただいたので一緒に来ちゃいましたけど、よかつたんですか？ お仕事の最中だつたんじや？」

「支援要請を受けてるけど、べつにマインツまで一緒に行くだけなら、大丈夫だよ」

「ふふ、よかつた」

「リーシャこそ、本当にマインツでよかつたのか？」

「はい……街だけにいると忘れそうになるものを、いろいろ思い出させてくれますから」

「なるほど。そういう感性がアーティストには大切なかもしれない。さすがだな、リーシャは」

「そ、そんなことは……」

また彼女が照れて困ったような笑みを浮かべる。

シユリが割り込んできた。

「こらつ、リーシャ姉にベタベタすんなよ」

「いや、ベタベタしてるつもりはないんだけど……」

「シユリちゃんつてば……実は、ロイドさんと仲良くしたかったの？」

「はあっ!? どうしてそうなるんだよ、リーシャ姉!？」

「えつ、違うの？」

「オレが、こいつと仲良くしたいわけないだろ！」

シユリが睨みつけてくる。

「ははは……まいったな……」

最初に出会ったとき、いろいろあつたせいで、ちょっと苦手に思われてしまっているようだ。

ロイドとしては不可抗力だと思つてゐるのだが。

「そもそも、あんたら、マインツなんかに、なんの用事なんだよ？」

少し長くなるけど——と前置きして、ロイドは受けている支援要請について話すことにした。

「——鉱山町で働いてる人は大勢いるんだが、みんな忙しいせいか、健康診断を受けに来ないらしくてね」

「へー休みもなく働いてるのか……大変だな……」

「ああ……」

人によつては、酒盛りや夜遊びに忙しいこともあるようだが。

「そのため、定期的にウルスラ病院から医師が健康診断に行つてるらしいんだ。大勢が病院に来るより効率的だからね」

「そういうや、オレはまだ受けてないけど、アルカンシェル劇団でも健康診断があるんだよな」「入団したときに説明があつたわね」

リーシャがうなずいた。

そりや、当然だな——とランディが言う。

「イリア・プラティエやリーシャちゃんが健康診断に来たら、ファンが集まつちまつて大変なことになるぜ」

エリイが苦笑して、ティオが肩をすくめて嘆息した。

「そうね。想像できてしまつだけに、怖いものがあるわ」

「……健康診断どころではなくなるかと」

人気者になるのも大変だが、人気者というのも大変らしい。

シユリが興味なさそうにしつつも続きをうながす。

「んで、その健康診断がどうかしたのか？　あんたたちが、やるとか？」

「俺たちは警察官であつて医者じゃないから無理だよ。実は、ウルスラ病院から出た医師と看護師が、まだマインツに到着してないらしくてね」

「どこかで寄り道でもしてんのか？」

「そうかもしれない。なにか理由があるんだと思う……意外と、すこし遅れただけで、もう到着しているかもしれないけどね。俺たちはウルスラ病院で頼まれたから、様子を見に

行くことにしたんだ」

ランディが、ロイドの肩に手を置く。

「なんせ、同行した看護師つてのが、ロイドの姉のセシルさんだしな！」

ティオが補足する。

「……そして、担当医はヨアヒム先生です。あれこれ理由をこじつけて、釣りをしているのかもしません」

今回の健康診断を担当する医師はヨアヒム・ギュンターといい、腕は確かなのだが、仕事を抜け出して釣りに興じるという悪癖があった。

リーシャが不安そうな表情を浮かべた。

「連絡がつかない看護師って、セシルさんなんですか……」

「うん……そういうや、リーシャはセシル姉と会ったことがあるんだな」

「はい。イリアさんの幼馴染みとして、創立記念祭の初日に、紹介してもらいました」

シユリが思案顔をする。

「そういうや、オレも挨拶くらいはしたな……優しそうな人だよな」

警戒心の強いシユリが、初対面の相手を褒めるなんて珍しい。それだけ、セシルの人柄が温かいということか。

「ん？ な、なんだよ？ オレ、変なことは言つてねえぞ？」



「うん。セシル姉は優しい女性だよ^{ひと}」

ロイドはうれしくて笑顔をこぼしていた。

マインツ山道に出たところで、バス停が見えてくる。

リーシャは誰にも聞こえないほど小さな声で「なんだか、嫌な予感がする……」とつぶやいた。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol. 178

発行人 田中一寿

発行協力 日本ファルコム株式会社

編集 小渕智幸
河野崇

デザイン・DTP 株式会社 ACQUA

表紙ロゴデザイン 萩窓裕司（デザインクロッパー）

発行 株式会社フィールドワイ
〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台3-1-9 日光ビル3F
TEL 03-5282-2211（代表）
<http://www.field-y.co.jp/>

Copyright ©Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.
©2025 FIELD-Y
©SHINKI KITSUTSUKI 2025
©DAISUKE ARAKUBO 2025

FALCOM SPECIAL MAGAZINE プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



3名様

「も～っと集まれ！ファルコム学園」缶バッジ

大人気!! オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント! ※絵柄はランダムです。

ご応募は特設サイトまで▶ <http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/>

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、(falmaga@field-y.co.jp) まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.178プレゼント係

- 1：お名前（ペンネーム可）
- 2：面白かった記事の番号→
つまらなかった記事の番号→（記事一覧から1つずつ）
- 3：アンケート①PS5版『イースX -Proud NORDICS-』発表の
感想は？
アンケート②『空の軌跡 the 1st』の続編があれば期待した
いことは？
- 4：希望するプレゼント番号
- 5：ご意見・ご感想など



記事一覧

- 1:『イースX -Proud NORDICS-』特集
- 2:も～っと集まれ！ ファルコム学園
- 3:ファルコムニュース
- 4:英雄伝説 空の軌跡
- 5:啄木鳥しんきのファルコム日和
- 6:英雄伝説 零の軌跡 午後の紅茶にお砂糖を

応募締め切り 12月24日(水)

メールでお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。